

秋田県 男鹿地区消防一部事務組合 様

—さまざまな特性のあるこの地域を高機能指令システムで支える—

<プロフィール>

本部所在地：〒010-0511

秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2号12番地7

URL：<http://oga119.jp/#>

管轄：男鹿市、潟上市（旧天王町地域）、大潟村

分署：6分署（北分署・東分署・天王分署・天王南分署・若美分署・大潟分署）

署員数：149名

管内面積：452.36km²

管内人口：55,765人

世帯数：23,060世帯



導入事例

男鹿地区消防一部事務組合様のご紹介

海岸線の近くにある男鹿地区消防一部事務組合様^①（以下、男鹿消防）の管轄地域は、西側には日本海が広がり、内陸には男鹿半島、男鹿三山と呼ばれる信仰の山があります。「なまはげ」ゆかりの地としても有名なところ（写真①）。

また、大潟村には田園風景が広がる広大な土地もあり、港には石油を備蓄する大型タンクが並ぶ場所でもあります（写真②）。

このような多様な地域特性をもつこの地の消防本部では、さまざまな通報要請に対応できるよう準備をされています。

山からの滑落事故や海難事故、林野火災、ドクターヘリの対応、また本署の近くにある石油備蓄基地タンクでの万が一の災害のため、専用の高所放水車などをはじめ特殊車両が本部に3種3台配備されているなど、いかなる災害にも対応できるよう1署6分署で地域を見守っています。



①写真右下の白い建物が男鹿消防署、目の前には海岸が広がる。近隣の山から撮影

②男鹿消防管内図



新指令システムの導入



③60mの高さから260MHzの電波を送出している新設塔
天王スカイタワー新設アンテナ

④消防本部内に新設された、通信指令室



平成22年 総務省発表のもと、全国すべての自治体の消防本部は、従来150MHz帯で使用していたアナログ方式の消防救急無線通信システムを、260MHz帯のデジタル方式へと、移行することが決定し、平成28年5月31日までの期限内に現在使用しているアナログの無線通信システムをデジタル化することになりました。

男鹿消防では、高機能消防指令システムへの更新及び消防救急デジタル無線への移行を、平成25年度から27年度にかけて行いました。同時に無線基地局を3箇所とし、そのうち1箇所は高さ60mの塔の上から電波を送出しています（写真③）。これにより、「電波未受信地域（不感地帯）」を大幅に解消することができました。

また、指令室建屋につきましても、日本海中部地震や東日本大震災を教訓に、地震及び大津波にも耐えうる構造とした、床面の高さ9.5mの新通信指令室を増築されました（写真④）。

アナログ無線（150MHz）からデジタル無線（260MHz）へ

今回の高機能消防指令システム及び消防救急デジタル無線化により、さまざまな消防業務が改善されました。
主な改善ポイントを3点ご紹介します。

1. 通信手段の変化による“正確で迅速な無線通信”

今まで、遠距離通信は、各署所にある基地局を呼び出して通信内容を伝える、いわゆる伝言ゲームのイメージでした。ですが、導入後は3基地局による中継機能により、消防署員同士が直接通信連絡を取ることができるようになりました。それにより速く正確な現場との連絡が可能となり、結果として各署所の職員の負担を減らすことにもなりました(写真⑤)。



⑤ デジタル無線により、距離と通信データ量が大幅に増えました。

2. “通信地帯のエリア拡大”

半島の中心部に大きな山があるので、電波が届きにくい場所があり、今も携帯電話を使って通信している場所もありますが、今まで電波が届かなかった西海岸エリアの「不感地帯」はかなり改善され、通信可能エリアが増えました。

3. “誰でも対応できる環境へ”

消防本部には、現場に直接行くのではなく、通信指令業務を専門に担当する通信員がいます(写真⑥)。

以前までは、現場の地理が分かる長年の経験を持った署員がその要となっていました。しかし、現在では「位置情報通知システム」が導入されたことにより、固定電話やGPS付き電話で通報をしてきた人の位置が即座に地図上に表れるので、新人の署員でも災害現場の特定を素早く、正確に行うことができるようになりました。

また、このシステムは地理に不案内な観光客からの119通報時に、住所や目標物などが分からなくても、現場位置を特定しやすくなったので、今までよりも所在地確認が早くなり素早い対応ができるようになりました。



⑥ 指令室：ここで災害通報を受け、指令管制を行う。

今後の展望

今回の消防救急無線通信のデジタル化により、かなり不感地帯の問題は解消されましたが、さらに西海岸沿いの不感地帯をなくすべく、男鹿消防では車両に載せて簡易基地局となるような装備の設置ができればと考えていらっしゃいます。

また今回は、高機能消防指令システムと併せて消防OAシステムの導入により、事務効率の向上も図られました。この時間を有効に活用し、導入したシステムの使用方法を覚えるのはもちろん、さまざまな災害対策・人命救助・地域への対応など多岐にわたる知識習得や訓練等を充実させ、一人ひとりの能力を高めていきたいとのご計画です。

最後に、消防には災害や救急の通報だけではなく、苦情や街の困りごとのような通報も入ります。いかなる時、いかなる場所でも地域住民の皆様のご期待にお応えできるように日々努力していきたいとのことでした。

* 記載された内容は、改良のため予告なく変更することがあります。* その他記載された会社名、製品名等は各社の登録商標または、商標です。
* 当カタログに記載の画像はイメージです。実際の画面、製品とは異なります。